

自己評価報告書(最終報告)

報告者

言語系コース(英語)
／前田 一平

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

テーマ:アメリカ合衆国ハワイにおける日系人のコミュニティ研究—特にハワイ島ヒロ及びカイウイキを中心に—
計画:平成24年度に申請予定、3年の研究期間

2. 点検・評価

科研の申請はしなかった。計画しているのは新たな分野の研究なので、科研を申請するには十分な準備が必要である。その準備が間に合わなかった。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

- 鳴門教育大学英語教育学会(同窓会を兼ねる)のニューズレターや年次大会を通じて卒業生に呼びかける。
- 訪問可能な大学について検討し、可能な限り訪問をして、勧誘に努める。

2. 点検・評価

○中間報告のとおり、学会の年次大会、ニューズレターを通じて卒業生に本大学院への勧誘を行った。
○松山大学を訪問し、経営学部の吉田美津教授と面会し、大学院説明をしたあと、同大学の入試課に置いてもらうべく許可を得て本大学院資料各種を吉田教授あて送付した。
○別府大学文学部の山野敬士教授のお世話で、同大学の学部3年生と教員に対して説明会を開催し、資料を配布した。来年度に受験を希望する学生2名を確認した。また、同短大の卒業生の入学可能性について質問を受けたので、資格審査の条件について説明をした。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

○読解力・思考力・表現力の養成に努める:読解力とは「他者」を慮る姿勢。アメリカ文学担当者として、物語のなかで他人、人種的他者、ジェンダー上の他者、セクシュアリティの他者等、常に他者へ配慮し、他者を理解し、その理解を適切に表現することを教育上の目標とする。

○学生に留学を促す。

○ゼミ生を中心に、学生の生活全般にわたって注意を払う。

2. 点検・評価

○新指導要領が求める言語活動の中心要素たる思考力と表現力、即ち、読解力を養う授業を「他者を慮る心と力」を基本姿勢にして、専門のアメリカ文学の授業を中心に実施した。教員が受講生の思考と発言を促し、間違いを恐れない勇気を確認させて授業をすれば、受講生はおのずと主体的に考え表現することができる手応えを得た。

○留学については様々な段階で学生に促している。その結果、指導学生の学部生1名がオーストラリアの高校の指導助手を一年間務めた。

○学部2名、修士課程2名、博士課程1名のゼミ生には、就職、留学、論文作成について細かな指導をした。就職状況は、留学した1名を除き、学部生1名は徳島県中学校英語に2次試験で不合格(本学生の学業成績はGPAで本学最高点であり、前田賞を受賞した)、修士課程学生1名は徳島県小学校に合格、博士課程の学生1名は群馬高専に助教として採用となった。

II-2. 研究

1. 目標・計画

○アジア系アメリカ文学研究会で口頭発表をする。

○長年にわたって編集に携わった『ヘミングウェイ大事典』(勉誠出版)を出版する。

○ハワイの日系人研究に着手する。

○日本ヘミングウェイ協会事務局長・評議員、日本アメリカ文学学会大会運営委員、中・四国アメリカ文学学会評議員、日本英文学会中国四国支部理事、アジア系アメリカ文学学会編集委員として、学会の責務を果たす。

2. 点検・評価

○目標どおり、アジア系アメリカ文学研究会フォーラム(9月15日、16日)で招待講演を行った。また、同研究会例会において『アジア系アメリカ文学を学ぶ人のために』の書評を口頭で行い、それを同研究会の学術誌AALA Journalに依頼原稿としてまとめ、現在、印刷中である。

○『ヘミングウェイ大事典』(勉誠出版)を7月に共編出版した。

○ヘミングウェイ没後50周年記念『アーネスト・ヘミングウェイ』(臨川書店)を日本ヘミングウェイ協会編として出版した。

○予定通り、各所属学会の役員として任務を果たした。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- 人文・社会系教育部部長としての責務を果たす。
- 教授として言語系コース(英語)の運営に貢献する。

2. 点検・評価

- 人文・社会系教育部部長として、大過なく1年間の任務を終えた。
- 言語系コース(英語)の運営にも十分に尽力してきたと自負している。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- 附属学校との連携: 教育実習や研究授業に参加して、指導助言を行う。
- 社会との連携: 教育支援講師として依頼があれば積極的に応じる。
- 国際交流: 本学学生に海外姉妹校への留学を奨励する。

2. 点検・評価

- 教育実習の研究授業を観察するために附属中学校を訪問し、助言指導をした。
- 支援講師に登録はしているが、依頼はなかった。
- 留学生がいる授業では、英語で授業をするよう努めた。
- 留学の成果は語学力のみならず精神的成長であることを説明して、学生が留学するべく背中を押すよう心がけた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

1. 教育部長としての任務を果たしたことは、本学への貢献度は高いと判断したい。
2. また、研究上、7年越しに『ヘミングウェイ大事典』(勉誠出版)(925頁)を出版へとこぎつけたことは、役職者(事務局長、評議員)を務める日本ヘミングウェイ協会の大きな業績であると同時に、編集者および執筆者として深く関わった私個人の重要な研究業績として自負している。これは直接的な本学への貢献というわけではないが、本学教員の研究レベルの高さが認識される研究業績であると考えている。